

【資料】

夏のセミナー

ワークショップ2

「ホットシーティングを使いこなす」

～「泣いた赤鬼」を通して本当の友情を考える

獲得型教育研究会

林 久博

①ホットシーティングの運用の実際

②授業デザインの実際

何のために運用するか

どこで運用するか

どのように運用するのか

「表現」をどの様に共有するのか

技法をどの様に組み合わせるか

【学習の導入部のホットシーティング】

『泣いた赤鬼』の冒頭場面でホットシーティングを行う

問い

赤鬼さん、あなたは、どうして
そんなに 人間と仲良くなりたの？

ねらい

赤鬼の「完遂願望」を想像する



青鬼が寄り添いたかった赤鬼の「思い」
のアウトラインをつかむ

作品の前提、アウトラインをつかむことにつながる(導入部で技法を使う意味)

本日の学びのテーマ

『泣いた赤鬼』を読んで

「本当の友情」について考える

ホットシーティング

授業デザインのポイント

学習者が技法を知る・慣れる・入り込む ために

○桃太郎などを題材に

教員がホットシートに座って実演してみる

○「私はだれでしょう」

ゲーム化してやってみる

※本日のアイスブレイクで体験

○ミニマム化して日常的に実施する

短編でやってみる(東君平著『ひと口童話』など)

短編から中編、そして長編へと段階的に扱って技法に触れていく

「ライト」から「ディープ」へ(楽しい活動から深める活動へ)

どこで技法を使うか

- 物語の「起・承・転・結」
- 指導過程の「導入部・展開・山場・発展」



どこで技法を使っても意味がある
指導者の授業デザインの中でどこに重きを置くか

どの様な形式で技法を使うか～様々な形式がある

○同時多発一斉授業型 (学習者の理解を診断的に把握したいとき)

○1対全 (スタンダード)

⇒ホットシートに座るのは1人 その他複数で質問をする

○複数 対 複数

⇒複数の人が解答者になる ※全く違う解答に揺さぶられる効果がある

○質問作成をグループワークで行う(予め書き言葉にする)

⇒話し合って「良い問い」を吟味する過程で学習課題に迫ることができる

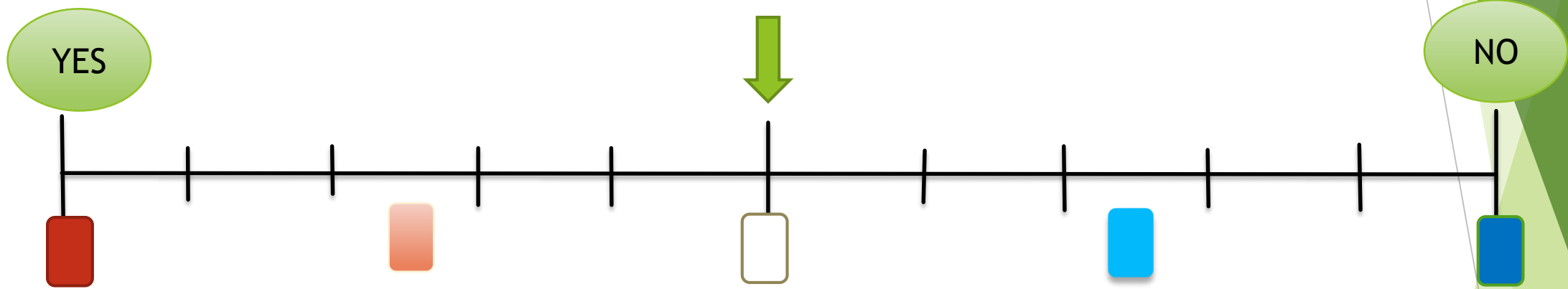
○学習の途中で質問者と解答者が入れ替わってみる

⇒役割交代はメリットもデメリットもある

ほかの技法との組み合わせ

- ティーチャーイン・ロールで物語(課題)と出会う
わせる
- フリーズフレームを取り入れる
折られた看板、赤鬼が顔を埋めた戸
- ボイスインマイヘッドを組み入れる(登場人物の心
内語をみんなで考えて演じてみる)
- 「yes or NO」を組み入れる(理解したこ
とを共有し議論する時に有効)

「Yes or No」～心のものさしの上に並んでみよう
青鬼は、赤鬼のところに帰ってくるだろうか？



「立ち歩き議論」をしよう！
3分間～○同じ色のカードの人と

-  vs   vs 
-  の人の話を聴いてみよう

もう一度、並び直してみよう 全体討議をする

授業デザインのポイント

①技法の系統性と多様性を踏まえる

○ミニマムから中、長編へ

○問いは「書き言葉」でも良い

○テキストの物語進行過程での取り上げ

○診断的ホットシーティング

○授業展開過程の中の位置づけ

②他の技法との組み合わせを考える

○「赤鬼は、やっとのことで青鬼を見つけました。そして、赤鬼に話しかけます。さあ、どんなことを言うのでしょうか」



「ボイス・イン・マイヘッド」 「yes or NO」

③活動しっ放しからの脱却

立ち歩き議論 全体議論 の設定

活動しっ放しでっ終わらないために

○「yes or NO」を組み入れる

○立ち歩き議論を取り入れる

○「なりきり日記」を書いてみる

○全体議論で締めくくる